

相続講 その二

小松教区の相続講から問われていること

小松教務所主計 源了惠

みなもと りょうえ

小松教区に受け継がれる相続講。その意義と歴史について特集していきます。前号に引き続き小松教務所の源主計に寄稿していただきた文章を掲載します。

前号に引き続き、この地域で長い歴史を背景として受け継がれた「お講」と、この「講組織」を基盤として、真宗大谷派（東本願寺）宗門を支え続ける「相続講」のあたり方から、私自身が思われる正在のことの一端をお伝えしたいと思う。

前号のとおり、小松教区内に現在まで受け継がれるお講は、500年以上の歴史を持ち、この地域に生きる人達によって途切れるこ

となく繋がってきた仏法聴聞の場だ。小松教区は、三市一町の区域で決して広くはないが、各組（くみ）、各町内等で毎月開かれている講や法座の数は全国でも類を見ない。

私が毎日の宗務の中で感じる特別な空気を醸成してきたものこそ、長い時間の中で、その時代その時代を生きた人々によって受け継がれ、いまに手渡された、共に教えを聞く場の力なのだと思う。

私自身、祖父や様々な人、言葉、出来事との出遇いの中で、真宗の教えに触れたことを縁

法義相続本廟護持

「真宗の教えは念佛に生きた人によつて伝えられてきた」と教えられている。人は生まれて、生きて、必ず死んでいかなければならぬ。それでも、その人がいただいた教えは繋がれて生きる。いま手を合わせて念佛しているという事実がすでに、先のどの時代においても、私に繋がる無数の人たちの中に、教えを聞く場に集い、親鸞聖人の念佛の教えをいただいて生きた人があつたことの証だろう。いく。いま手を合わせて念佛しているという事実がすでに、先のどの時代においても、私に繋がる無数の人たちの中に、教えを聞く場に集い、親鸞聖人の念佛の教えをいただいて生きた人があつたことの証だろう。私はとつての真宗本廟はそういう場所だ。

「本廟護持」は、こういった無数の人の思いや願いが込められた本山、真宗本廟を未来へ相続するということで、それはそのまま、真宗の教えを聴聞し、念佛に生きた人達の営みを自分自身が相続していくこと、「法義相続」と離れずあることなのだろう。

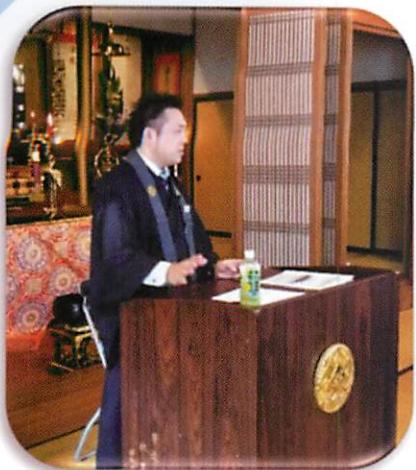
「本廟護持」で言い表される。私は、本廟を思うとき、「参らせてもらうのも、こんで最期や」と言ひながら、真宗本廟（東本願寺）の御影堂の脇に正座し、念佛していた祖父の姿を思い出す。

最近、特に若い世代に対してもうらうのも、こんで最期や」と言ひながら、真宗本廟（東本願寺）の御影堂の脇に正座し、念佛していた祖父の姿を思い出す。

「宗教離れ」や「寺離れ」という言葉が枕詞のようを使われる。世代を問わず、無宗教を標榜する声も聞く。確かに、浄土真宗や特定の宗教を信仰すると答える人は少ないだろうが、それが「宗教離れ」とか、「無宗教」と言えるのだろうか。

私自身、若い頃は、自分の求めているものが何なのか、どこにあるのか分からなかつたよ

変わる時代のなかで



終わりに

小松教区の相続講について、とりとめもなく思いを巡らせるうちに、平成から令和へ年号が変わった。この先、どんな時代になるかは分からぬ。ただどんな境遇におかれても、「こ

うに思う。宗教は、高齢者が必要とするものとも考えていたが、いま思えば、その頃の方が、生きることの悩みを純粋に受けとめようとしていた。そのなかで真宗といわれるものとの出遇いもあつたのだ。若い世代のやあるのではないだろうか。あるものが、宗教のなかにそういう経験を通して、まづ私自身が、本当の意味で次世代の人たちの真宗に出遇うきつかけづくりに、力を入れなければならないと思ふ。

人が在る限り、生きることの問い合わせや苦悩は消えることがないだろう。環境や社会や、人の営みがどれだけ変わつても、人が生きることの本質は変わらないから

だ。眞面目に生きようとすれば必ず苦しく、悩みは多いのだろう。だとすれば、親鸞聖人が顕かにされた真宗の教えは必要であり続け、その役割を終えることはない。

お講をはじめ、真宗の教えを聞く場は、人と人を教えが繋いでいく場でもある。「聞法者の交わり」が本願寺の始まりと言われるが、そのはたらきは時間も場所も超えてはたらいているように思う。私自身も「共に教えを聞く」ということを縁にいただく人たちが、根本道場としての真宗本廟を支える。この地域に相続講という形で繋がれてきたものは、単なる制度や仕組みではない。小松教区にご相続講としてこの地域と人に息づいてきたもののなかに、宗門を未来へ繋ぐうえで見過ごしはならないものがあるよう

うに思うのだ。

子や孫ほど年の離れた私に「大変やけど、この大事なことをどうにかして残せるようには頑張ろう。わしらも一緒に頑張るから、また頼むわい」と言ってくださる先輩方がいる。自分が「お育て」の中にある。「お講」が息づくこの地域の空気は、大事なことを忘れそうにさせてくれる。

(終)

がら熱を持つたいと思う。様々なことから自分を抜きにせず、開き直ることなく歩き続けたい。そう思わせてくれるのもやはり、この地域の歴史が醸す特別な空気なのだろう。

教えを聞く場を開き、教えをいただく人々が、根本道場としての真宗本廟を支える。この地域に相続講としてこの地域と人に息づいてきたもののなかに、宗門を未来へ繋ぐうえで見過ごしはならないものがあるよう

Q おじいちゃんがいつも念佛ばかり称えていました。念佛には何か御利益がありますのでしょうか？

A 最初に、御利益を望む私たちの思いを振り返ってみましょう。「この食品で健康になつた！」CM等で流れるのは、ほぼそのような話題です。そこで、試してみようと思ったり、試してみたりします。

しかし、効果が表れるものもあれば、ないものもあります。そして私の思いと逆の結果になつた時、私たちにどんな感情が生まれるかというと、「あ～損した！金と時間の無駄！」と吐き捨てることが闇の山ではないでしょうか。私は損得の思いを中心にして生活しているのです。残念ながら、念佛には、それに応える御利益はありません。

「わかつてもわからんでもいいから、お念佛申しなさい。そしてお念佛によつて育てられなさい」これはある先生がおっしゃった言葉です。

日々の生活を通して、「あなた自身どういう人間として生きていますか」。そういう問いかけをきちんといただくことが、お育てにあずかるとか、念佛に育てられるという意味なのです。私が私自身の生き方に気づかされることが、念佛に育てられるという御利益といつていのではないでしょうか。如来の問いかけである念佛によつて、私が聞き続ける存在となついくのです。

【教区教化事業のご案内】

◇十二日講
毎月 12日 午前 9時半

会場 常磐会館（小松教務所）
8月は全戦争犠牲者追弔法会と併会

◇日曜講座
【7月】7日
(8月休講)

【9月】1、15、29日

◇教区帰敬式（おかみそり）
7月 22日(月) 9時
会場 常磐会館（小松教務所）

◇郡中御影報恩講
7月 23日(火) 1ページ目参照

◇暁天講座
8月 1日～5日
午前 5時45分～7時30分

1日 西山 郷史 氏
2日 橋爪 昭人 氏
3日 ダシュシヨバ ラニ 氏
4日 蓮容 健氏
5日 大窪 康充 氏
於 正林寺（能美市宮竹町）
於 常磐会館（小松教務所）
於 寺畠せせらぎ館
(能美市寺畠町)

◇詳細につきましては小松教務所までお問い合わせ下さい

うららのお寺

勅帰寺 かんきじ



「丁寧に、地道に」。そう語るのは、住職2年目の大垣巧（たくみ）さんだ。

住職継承の際、故・宮越孝二総代からかけられた言葉が心に残っているという。それは、「ご住職、なんとか現状維持を」という言葉だ。「現状維持」といっても何もしないわけではない。「できることを一生懸命やつて、子や孫、もっと先にまでつなげていましよう」という宮越さんの熱意を感じられたそうだ。

勅帰寺には、500年もの歴史がある。そのなかで特に印象的なのは、二度の本堂焼失についてだ。明治24年に本堂等が焼失。それから約40年かけて再建し、昭和7年10月15日、報恩講の満座にあわせて、完成を祝う法要を行つた。しかし同月22日、小松の橋南1917戸を焼失

させた大火によつて、再び本堂と庫裏を失つてしまつた。再建から、わずか一週間後のことだつた。

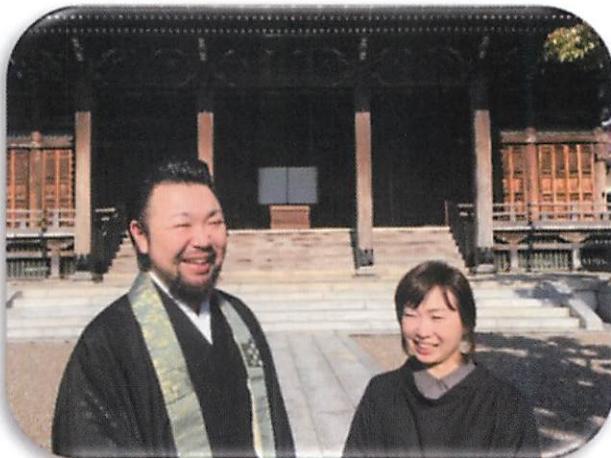
その際、かけつけたご門徒衆が、大門の上に立つて水をかけづけ、大門を護つたと伝えられている。「私たちが命がけになつてていることは何でしよう」。

自らに問い合わせるように住職は語られた。

勅帰寺では、今年から『門徒歴史同好会』を始めた。これは、勅帰寺の歴史の深さに驚いたご門徒のおひとりが発案したものだ。ご門徒主体で、学習会を開いたり、新聞を作つたりする予定だそうだ。「お寺の歴史は、若い方にも無関係ではありません。皆さんのが先祖によつてつむいでこられたお寺だと知つてほしい」との思いが込められており。

お寺離れが進むなか、「日頃の法務で、丁寧にお勤めと法話をし、一人ひとりと膝をつき合ふ」をわざといきたい。苦しみながら、それが一番の近道だと思う。とにかくお念佛につながることをやつていただきたいです」と、住

坊守の卓子（たかこ）さんは「毎月13日と28日の御機会なので、ちょっとでも足を運んでいただければ」と笑顔で話してくださいました。



編集後記：今年も、7月23日に郡中御影報恩講が勤まります。今回、取材に伺つた勅帰寺さんでは、郡中御影のお軸を200年以上も保管されています。御影は、一度の火災を免れて、いまに伝えられているということです。眞宗門徒の歴史と情熱を改めて感じながら、今年もお参りさせていただきま